

同期会の報告

高1回

高中二期会報告

毎年実施してきた高中二期会(東京支部)は、2年間休会(19年度は上越市で合同、20年度は諸事情により)しました。本年は同級生多数の要望があったので5月14日(木)私学会館で開催致しました。同級生は80歳近くの高齢者であります、参加者は実に30名になりました(参加希望者は35名)。

今年はNHKテレビの大河ドラマ「天地人」の放映があり、上杉謙信公の「第一義」の精神で結ばれた雪国高田への望郷心が強く影響し、懇親会が大盛会になりました。

戦中戦後と、今迄経験したことがなかつ

た社会的大変動の中にあった昭和18年より24年の5～6年間の青春時代をすごした高中時代の学生生活を共に語り合った一時は、各人の人生において決して忘れられない思い出の一つになると思われま

す。あの「妙高山は峨々として」「第一義」に裏付けられた、伝統ある高田高校の校歌を歌いながら、老骨にムチを打ち、来年また元気で再会しようと強く祈りつつ、それぞれ別離を惜しみま

永高直治(高1回)



高中二期会東京支部懇親会(於私学会館 平成21年5月14日)

福祿会では、毎年一回、ふる里妙高をおぐ赤倉で「福祿会夏期大会」を開催している。毎年、贅沢に2泊3日で行うのが恒例。宿は、定宿になって十数年、「金型あかくら荘」和室2室に談話室の余裕ある部屋7室を予約して応募をまった。

しかし、寄る年波には勝てず年々参加者が減少、とうとう今年は初日26人、2泊目は12名の寂しさになってしまった。

かつての福祿会は、同窓仲間であって結束が堅いと自負していたものだが。写真のごとくの惨状になってしまった。今や73-4才の「老」では仕方のないことなのか。

さて、夜の宴会がメインの福祿会である。でも夏の大会に集まる連中は元気だ。宴会が始まるまでの僅かな時間、温泉で暖まった勢いからか、部屋の彼方此方で酒盛である。館内放送で「宴会」の始まりを知る頃には、既にろれつの回らぬ猛者もいた。

女性6名も参加、座も賑やか。人間70歳代になると、幼稚園児と同じ。男女の区別なく、お互い遠慮なく会話が弾んで楽しい。二次会は「カラオケ」である。ビール、ウイスキーを持ち込み、デュエットで盛り上がる。楽しき哉「青春時代に再会」するひとときである。

本会の楽しみは勿論、酒ばかりではない。昼間の行事は、ゴルフ組と観光組に

分かれて、足腰の運動に励むのである。

ゴルフ組は「松が峯カントリー」「妙高カントリーと」2日のプレー。

観光組は、妙高周辺、信州一円を毎年コースを違えて観光。今年は野尻湖で船遊び、唱歌で有名な「故郷」の作詞者「高野辰之」の生家、記念館を訪ねる。

天候不順の平成21年の夏であったが、精進のおかげか、真夏、真っ盛りの中、20度と汗もなく快適に過ごせた幸せにも恵まれた。それにもまして今年最大の「福祿会」の朗報は、仲間の誰一人の訃報も聞かなかったことである。

今年不参加のこの報告を見た「福祿会員」来年は是非、明るい顔を見せて欲しい。

ところが、旅から戻っての夜、吾が同胞「飯田昌夫」君の訃報の知らせに驚く。

彼は、高田高校から教育大、日本鋼管とバスケットでは日本を代表する選手生活を送った好漢、我々の希望の星であった。ご冥福を祈るばかりである。

樫野利介（高6回）



高10回

高10回卒業50周年記念東京同期会

高校10回は昭和33年(1958)の卒業で、前年32年春に大火の経験をしました。当時の校長は小和田毅夫さんです。

こんな仲間達が、卒業50周年を記念して、昨年10月24日、新橋「蔵の桜」で、久しぶりの同期会を開催しました。東京を中心に35名の参加がありました。

東京支部総会参加の常連組に加えて、福井から大森宏君、仙台から横尾邦義君がはせ参じてくれ、50年ぶりの顔もちらほら、懐かしい仲間の集まりです。

高校時代の話やら、火事の話やら、別れてからの苦労話やら、あっという間のひと時が過ぎました。

また、会場に藤嶋弘徳君も見え、支部会報『雪椿』第32号に掲載されている、「三浦雄一郎チョモランマ遠征隊に食料隊長として参加」の話やら、貴重な写真をみせても

らい多いに盛り上がりました。

京都の高橋一紀君から京都の銘酒が届いておりました。ありがたく戴きました。会場の「蔵の桜」は旧吉川村(現上越市)出身の方が経営する十数のチェーン店の一つです。

当日は、意識的に触れませんでした、長年同期のまとめ役であり、高高東京支部世話人として活躍してくれた鎮西昶君と、何時も集まりには出席してくれていた野球部ピッチャーの板倉重郎君が逝去され姿が見えなかったのは本当に残念でした。鎮西君は、この記念同期会を計画した1人でもあり、心残りのことでしょう。ここに謹んでご冥福をお祈りします。

今年の10月15日に古希会記念大同期会を高田で開催することを告げ、東京勢も大挙して参加することを誓い、高田での再会を約束して散会しました。

もちろん、元気な仲間達は、場所を変えてかなり遅くまで新橋、銀座で飲み、語りましました。

水澤忠弘(高10回)



まだまだ元気な三十五会

数年前から恒例となった夏季の東京・上越合同登山ゴルフ会が8月6日池の平温泉で行われた。2泊3日の予定だが、一泊組やゴルフ日帰り組もある。

総勢34名、登山11名、ゴルフ20名、残りは散策組である。例年は快晴の池の平も雨模様、しかし宴会は大いに盛りあがった。翌日は霧と雨で最悪の中、登山とゴルフへ。私はゴルフ組だったが途中からの土砂降り

でやむなく途中で中止。登山組は標高2,354m、日本百名山の一つに数えられている四阿山（あずまやさん）へ挑戦。恒例の山頂での宴会は雷の危険があるとのリーダーの指示で、少し下った岩陰で盛大にやったそうである。また、悪天候を無理せず、予定より遅れて下山。宴会直前に全員無事な顔を見せた。また、来年が楽しみである。

中条一三（高12回）



高19回

高19回2009年東京同期会

今年の高19回東京同期会は2月28日(土)にアルカディア市ヶ谷で行われ、31名が参加、例年通りの盛会となりました。

竹澤正君の開会宣言と乾杯でスタート。還暦を迎えたせいか、一斉に料理のコーナーに向かうということはなく、同じテーブルの人とおしゃべりを楽しみながら、時々料理を取りに行くというスタイルでした。

スピーチが始まり、最初に初参加の中澤順君から、元々は東京育ちだが父親の命令で高田に寄留し、高田高校に単身で通ったこと、現在3世代同居の家に住み、孫にも恵まれているとの話がありました。

続いて、上ノ山博夫君からは、放送業界で働いてきたが、一昨年佐倉市議選に立候補して当選、現在は佐倉市議をやっているとの話。福田良夫君からは、還暦を迎えたが引き続き稲城市で産科医として頑張っており、日本の少子化の解消に少しでも貢献したいとの話。高田から毎回参加の丸田美和子さんからの糸魚川高校の非常勤講師に就いたが、着任時に全ての先生の中で一番の年上ですと挨拶をしたという話に、会場は笑いに包まれました。

また、長岡から毎回参加してカメラマンを務めてくれる小林康生君からは、病院の総務の仕事は程ほどにして

FM長岡のディスクジョッキーとして活躍しているとの話もありました。

定年年齢を迎えましたが、継続雇用などで仕事を続けている人が多いようです。

今回初めての試みとしてビンゴゲームを行いました。全員大真面目で司会の読み上げる数字を追っていました。

会の終わり近く、昨年3月に亡くなった柳本寛君を偲び、「千の風になって」を全員で合唱。最後の校歌斉唱の前に宮原友子さんから、友人の認知症の父親に校歌をテープで聞かせたところ、顔を紅潮させて「オオー」という大きな声を出したとの報告もありました。

2次会は近くのカラオケルームに会場を移し、26名が懐かしい歌やおしゃべりで大いに盛り上がり、予定の3時間があっという間に過ぎてお開きになりました。

「まだまだ、わが同期は若い！」ということを実感した今年の東京同期会でした。

小坂健太郎（高19回）



高田の「四四の会」（齋藤尚明代表）の呼びかけで、卒業40周年記念同窓会が開かれました。高21回生のこちらでの名称「深雪会」の会員も続々参加です。

と き：2009年8月15日(土) 17：00～

場 所：料亭「やすね」

出席は、恩師7名（村山陽・竹内朝雄・佐藤春朗・岩崎正也・吉崎道義・薄波謙一・金子直先生）、高21回生83名（男性64名、女性19名）。

懐かしい先生方はお顔の色艶もよく、お元気そうです。遠くはカリフォルニアから、北海道から、京都・大阪から、そして東京・

神奈川・埼玉・千葉、富山や長野から賑々しく集いました。お盆の一日を、40年前の時間に巻き戻して、昔の面影を探ります。

地元の皆さんの心配りの景品で、お楽しみ抽選会も。火坂雅志さんと懇意の齋藤尚明さんの陶芸作品や「上越と酒」で登場した池田哲郎さん（千代の光酒造）の清酒「真」などが挙がっていて、頬が緩みます。

楽しい歓談の時間が過ぎて閉会、バンドの生演奏のある二次会に繰り出す頃には、「40年たったなんて嘘でしょう」という気になっていました。お世話役の皆さんに、感謝。

5年後、またお会いできますように！

真理子シャイフェレ（高21回）



高26回

高26回同期会

乾杯…。

このごろようやく日本酒の味が判る歳となり、美味しい食事と楽しい時間をもてる年1回の同期会を非常に楽しみにしています。

思い返せば、4年前にはじめて同期会に参加したのですが、そのときは同期の顔を全然覚えておらず(わからず)、名前もほとんど忘れていました。

とりあえずハシャいだフリをして、「ひっさしぶり！ 名前なんだっけ？ アハハ…」と、ふざけたそぶりでも名前を聞いたり…。しかし、名前を聞いても見ても全然記憶と一致しない。

その後、お酒を飲んで料理を食べて、先生だったであろう方にビールをついで「本

当にお世話になりました！」って昔話をし、写真も写し…。

そこで一気にフラッシュバック。思い出しました。この先生にはテストの点数をおまけしてもらい、赤点を取らずに済んだこと、この友とは内緒で一緒にタバコを吸ったことがある、こいつとは中学から一緒だったことなどなど…。

高校を卒業して、早や35年。思えば随分月日は流れた訳ですが、若き日を一緒に過ごした同期生と共有できている思い出や想いの大きさと重さを改めて痛感する夜でした。

皆さん今後ともよろしく。

乾杯…。

大塚辰男 (高26回)



新潟県立高田高校 高26回同期会 2008. 10. 25